

## さいたま市立宮前学校 第3回 学校運営協議会 議事録

- 1 日時・場所：「日時」令和6年2月22日（木） 10時～  
：「場所」宮前中学校 学校図書館

- 2 出席 会長 渡邊 浩志 （宮前中学校 PTA 会長）  
副会長 森田 敏男 （内野公民館 館長）  
荒井 清司 （本校チャレンジスクール実行委員長）  
白石 嘉郎 （内野本郷自治会長）  
鈴木 真 （宮前町2丁目自治会副会長）  
大林 陽子 （日進地区民生児童委員）  
作美 利春 （元特別支援学校教諭）  
松山 始子 （本校 PTA 副会長）  
岩崎 清子 （本校 PTA 副会長）  
渡部 智昭 （校長）  
金子慎一郎 （教頭）  
浦野 額照 （学校地域連携コーディネータ）

### 3 次第

- (1) 挨拶 校長  
(2) 開会宣言 森田副会長  
(3) 学校運営及び取組実践の報告  
今年度の取組について
- ・各学年の取組について （教頭）  
綴じこみ資料を参照、紹介と説明
  - ・生徒の様子、ボランティア活動について （教頭）  
綴じこみ資料を参照、紹介と説明
  - ・学校自己評価システムシートについて （校長）  
綴じこみ資料にて説明  
質 疑：いじめ防止の取組について  
：不登校の生徒の対応について  
Sora るーむ等の活用に向けて  
：コミュニケーションについて  
クラスでの友達作り、グループに属せない子の対応について  
：部活動の在り方について  
：ボランティア募集の拡大について
  - ・学校評価について （教頭）  
綴じこみ資料にて説明
  - ・いじめ防止対策について （いじめ防止対策委員会）（教頭）  
綴じこみ資料にて説明

(4) 次年度、宮前中学校の生徒にどのようになってほしいか

- ・各委員さんより提案
- ・そのためにどのような活動が有効的か
- ・そのような活動をするためには何が必要か

○設定した目標を生徒たちに知ってもらうことが第一です。その上で、どのような活動をすべきか、生徒に考えさせることが必要だと思います。

その上で学校・家庭・地域が子どもたちの成長につながる様々なコンテンツを用意し、子どもたちに広報し、あるいは参加を促し、参加しやすいように動機づけすることが肝心だと思います。

コロナ禍で地域の活動が中止されていたこともありますが、近年、地域の活動に参加する生徒が減少しています。地域が生徒の参加しやすいコンテンツを企画し、その広報に力を入れるとともに、学校や家庭が子どもたちに参加を促すようにし、地域の行事に参加する子どもたちを増やすことが必要です。そうした中から、地域を担う人材が出てくれば良いと思います。

○学ぶ目的を考え、目的意識を持つ

聞く耳を持ち、自分本位ではなく、思いやり・やさしさを持つことで小さい子ども・高齢者に対するコミュニケーション能力をつけることができる。

介護施設・保育園等の訪問に生徒が参加してはどうか。

○昨年は日進七夕まつりの行灯作成に多くの生徒参加していただきありがとうございました。本年もよろしくお願いします。

阪神淡路災害から急速に広がったボランティア、無償自腹で、自らの考えで人のために働くことが基本です。この思いは何処から生まれるのか、考えられる一つには生まれ育った環境。(条件は多々あり個人でも違う)

災害ボランティアでは熱い思いも生まれるが、自治会の清掃ボランティアではどうだろうか。作業内容が似ていても一緒にはならないと思う。そこでどうするかである。

現象面だけを見るのではなく、多種多様なボランティアに多く参加経験する中で培われると思います。家庭や地域と一緒にやっている一つにチューリップ栽培・音楽活動など宮前中として実践しています。

※日進二丁目自治会でも様々な活動を取組、猫の手も借りたいところですが、生徒の居住地問題、宮前中として行う為には、少々交通整理が必要と感じています。

○自立活動にみる時間の指導と教育活動での指導というとらえ方

「自立活動」の「・人間関係 ・コミュニケーションの形成」の指導項目

特定の時間だけでなく教育活動全体で上記能力の育成に努める。

ボランティア活動や体験活動など机上では学べない学習の場の活用、深化。

評価の捉え方が課題となる（大学生たちの後輩である高校生の進路相談としてのボランティア活動が、今はNPOの活動団体となり広く高校生のカウンセリング活動として発展している。）

教員の研鑽と連携

<特別支援学校の進路担当として得たものから>

3Day意識向上民間研修（県教委）→教員版未来くるワーク

教員の長期派遣研修における外部機関との連携（県教委）→「松屋」

ある企業の社長談

Q：社長として大切なものはなんですか。

A：従業員だね。従業員を大切にすれば、その従業員はお客様を大切にしてくれるから。

○子供達自身が楽しんで行っている活動で、地域に貢献できる機会があると良いなと思いました。（吹奏楽の演奏や演劇など）

お正月の能登の震災から、家庭や子供達の防災減災の意識は高まっていると思いますので、学校や地域とで改めて確認するのもよい機会だと思います。

○番場公園の花壇の利用方法、部活動の町会とのコミュニケーション

コロナ前は公園の花壇に中学校が花を植えていた。それを近所の人たちは喜んでいたのでまた活動してほしい。

○不登校生徒への対応（オンライン授業の実施）

他校では教室に入れない生徒に対して朝学活だけオンラインで参加して担任と連絡を取り合っていると聞いている。宮前中でもやってほしい。

以上のご意見や方策を受けて、令和6年度へ向けて「身につけさせたい力」の仮承認をしていただいた。

- ・地域の行事に参加する生徒を増やす。
  - ・コミュニケーション能力をつけさせる。
- 令和6年度学校経営方針（案）より
- ・学習活動 「学習者が主体的に学ぶ授業」へ変革と授業力向上の実現
  - ・教育相談 「Sora（ソラ）るーむ」を活用した不登校生徒への支援

(5) 諸連絡 教頭

令和6年度の年間行事予定にいて、日程が決まっている所の確認をする。

(6) 開会宣言 森田副会長

(7) その他

※令和6年度 第1回 学校運営協議会は、 6月中旬 10時～12時  
を予定しております。

